

東日本大震災からの復興 ～発生から5年を前に～

2016年2月23日



復興庁

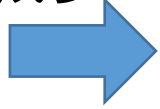
Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

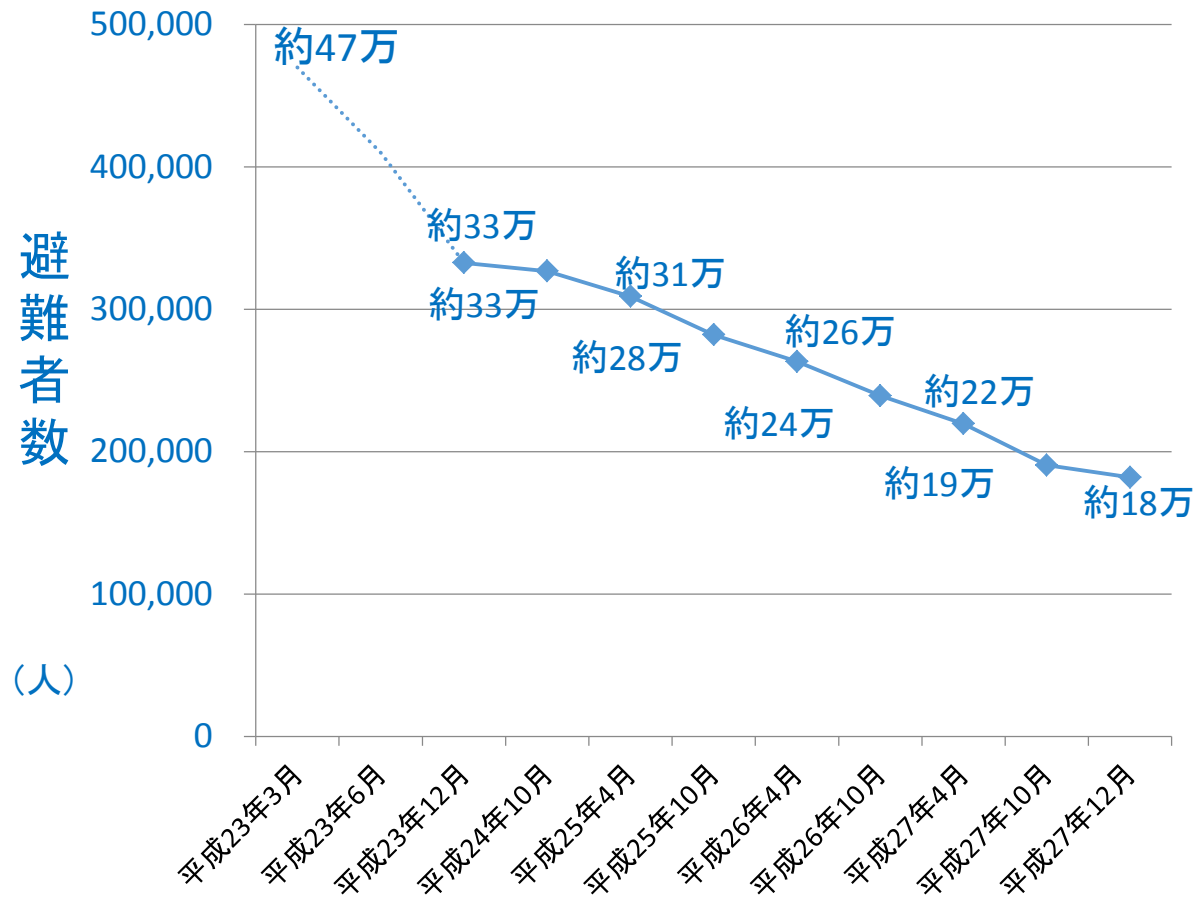
5年間の実績

避難者数の減少

470,000



180,000



公共インフラの復旧

- 公共インフラ → 概ね終了
(道路、鉄道、上下水道、電気、通信)
- 学校施設 → 90% recovered
- 医療施設 → 90% recovered

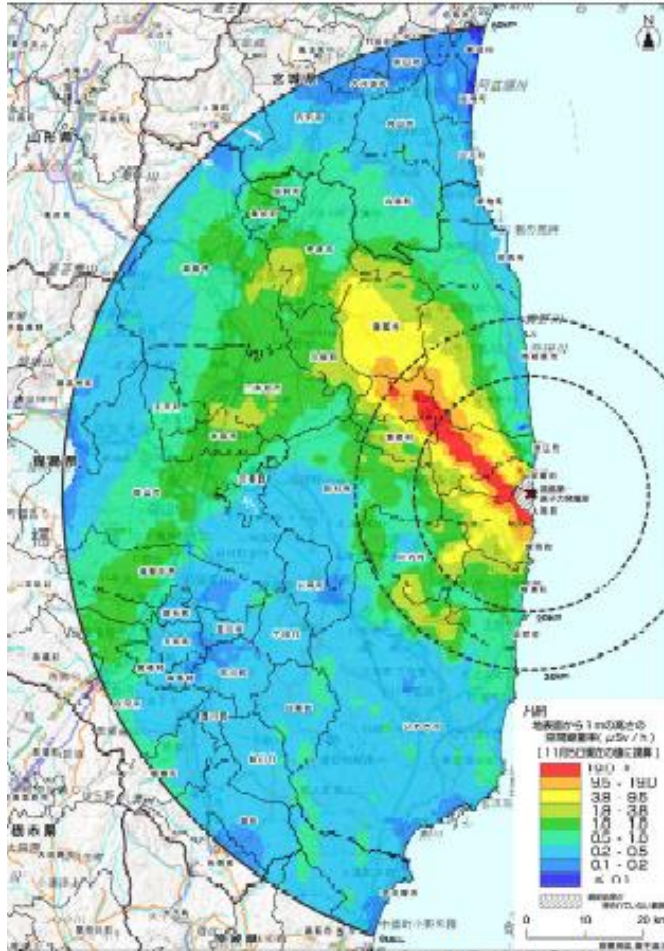
住宅の再建

- 高台移転 : 45% completed
- 災害公営住宅 : 59% 完成予定
(2016年3月末)

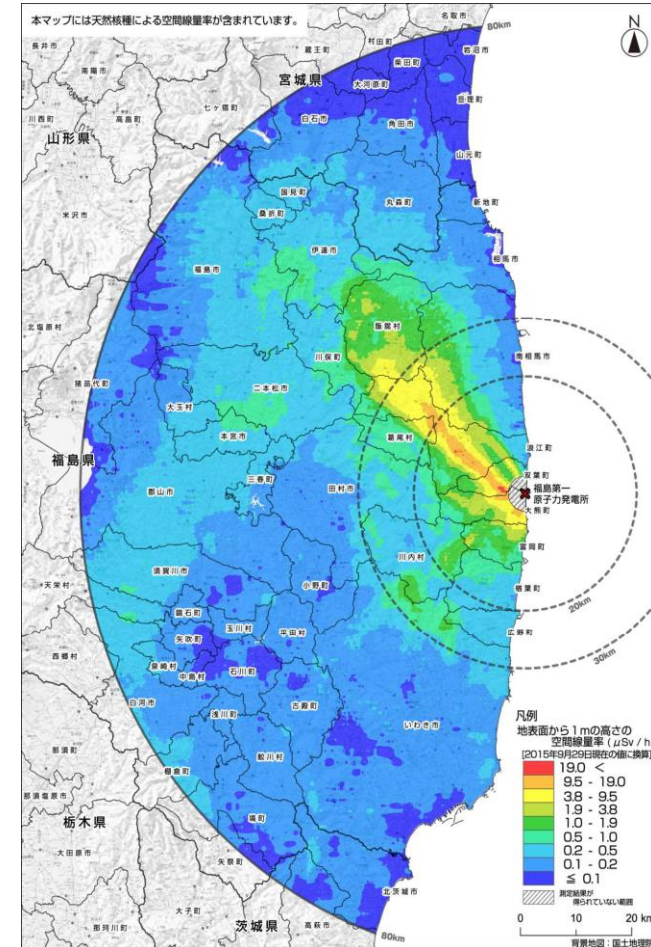
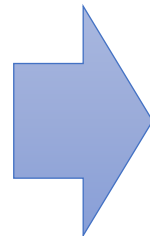
→ 概ね2019年3月までに住まいの確保に関する事業が完了する見込み。

空間線量率の推移

○東京電力第一原発から80km圏内の地表面から1m高さの空間線量率平均は、2011年11月比で**約65%減少**。



2011年11月時点

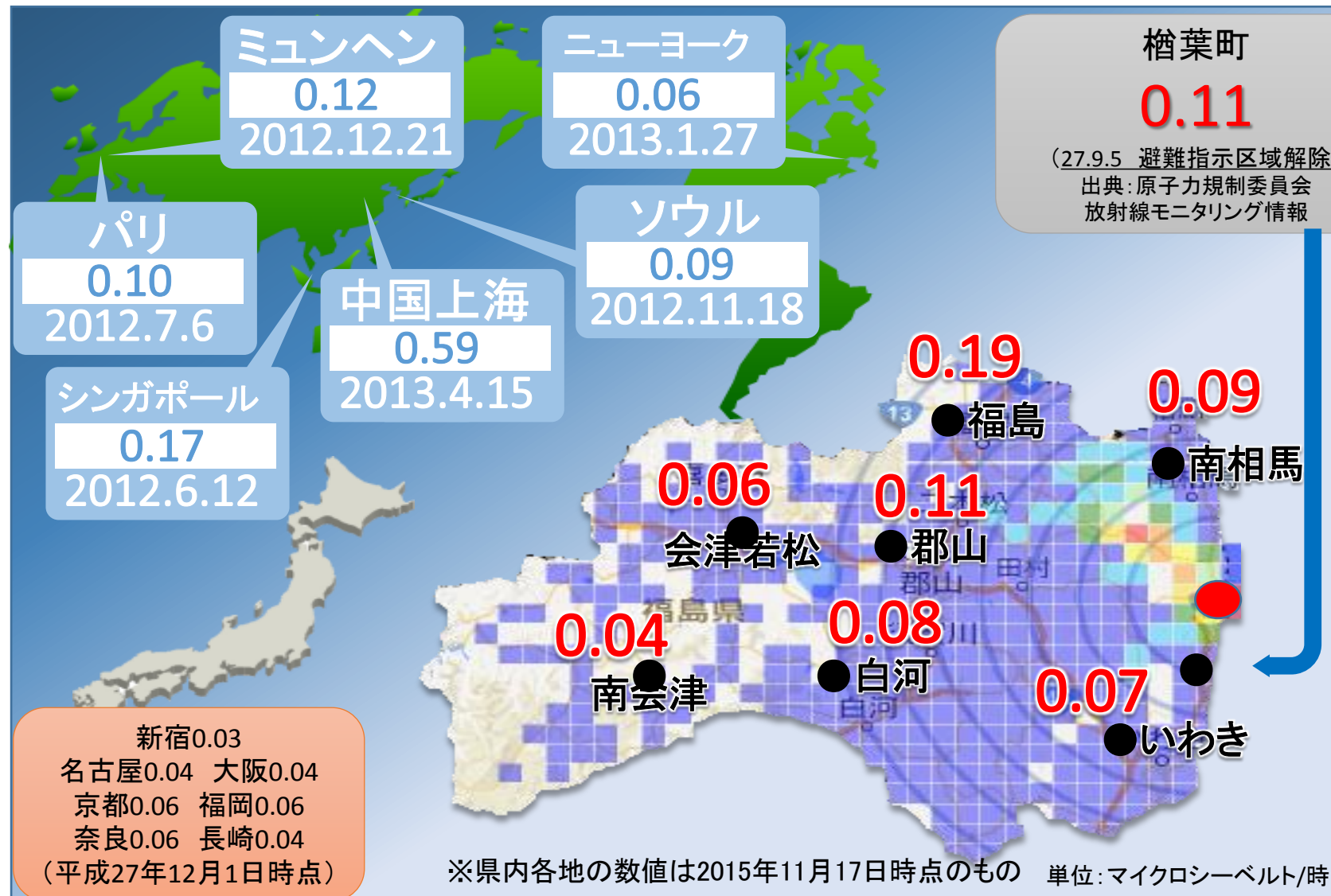


2015年9月時点

出典: 原子力規制庁 東京電力福島第一原子力発電所周辺の航空機モニタリング(第10次)

福島県内の空間線量率の現状 (2)世界との比較

○福島県内の空間線量率は、海外主要都市とほぼ同水準。



科学的根拠により設定された世界で最も厳しいレベルの基準値の採用

- 科学的根拠により設定された世界で最も厳しいレベルの基準値に基づく放射性物質検査の徹底による食品安全の確保。

日本 食品衛生法の 基準値		EU Council Regulation (Euratom) No 3954/87		アメリカ CPG Sec. 560.750 Radionuclides in Imported Foods – Levels of Concern		コーデックス CODEX STAN 193– 1995	
飲料水	10	飲料水	1,000	食品	1,200	乳児用食品	1,000
牛乳	50	乳製品	1,000			一般食品	1,000
乳児用食品	50	乳児用食品	400				
一般食品	100	一般食品	1,250				

※上記における基準値は、受ける線量を一定レベル以下にするためのものであり、必ずしも安全と危険の境目となるものではない。

出典：厚生労働省
風評TF資料